

【 野菜 】

トマト灰色かび病 ※病害虫発生予察注意報第5号 (R3.8.27付) 発表

8月下旬に調査を行ったところ、ほ場によっては急激に腐敗果率が増加しており、今後の被害増加が懸念されます（図1）。

本病の発生を抑えるため、枯死した茎葉、花がら及び果実等の感染源となるものを取除き、ほ場外へ持ち出すとともに、わき芽かきなどの管理を適切に行い通気性の確保に努めてください。また、薬剤での防除は発生初期の防除を徹底するとともに、耐性菌の発生を避けるため、同一系統薬剤の連用は避け、系統の異なる薬剤でのローテーション防除に努めて下さい。

【 水稻 】

トビイロウンカ ※病害虫発生予察注意報第2号 (R3.7.8付) 発表

飛驒地域においてトビイロウンカ（写真4）は確認されていませんが、美濃加茂市や恵那市の予察灯において断続的に誘殺されていることに加え、本虫の当県への飛来が継続して予測されており、引き続き注意が必要になります（図2）。

本虫は、世代を経るごとに増加するため、水稻が遅くまで残っている水田で被害（写真5）が発生する懸念があります。そのため、収穫時期が遅い水田で本虫が確認された場合は速やかに防除を実施してください。

○主な病害虫の発生状況及び今後の予測（9月）

病害虫名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項	
		1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬		
水稻	生育(飛驒市)	並						生育はコシヒカリ	
	穂いもち	多	< 晩生品種で多発 >						穂いもち いもち病の発生したほ場から採種した種子は翌年の感染源となるため使用しない。
ハウレンソウ	べと病	並	< 20℃前後で発生 >						べと病 感受性品種では、月後半に発生の恐れがあることから薬剤の予防散布を行う。
	コナダニ類	並	< 盛夏を越えると多発 >						コナダニ類 盛夏を過ぎるとほ場により多発することがあるため、発生に注意する。
	防除適期		▲←	▲←	▲←	▲←	▲←	→▲	
トマト	灰色かび病	多	< 多湿条件下で多発 >						灰色かび病 花がらや葉先枯れはすぐに除去する。発生後はできるだけ早い時期に治療効果が高い薬剤で進行を止める(葉かび病も同様)。同一系統薬剤の連用は避ける。 葉かび病 樹勢低下防止と防除を徹底する。
	葉かび病	並	< 多湿条件下で多発 >						
	防除適期		▲←	灰色かび病 (予防剤の散布、ローテーション防除)				→▲	
			▲←	葉かび病 (予防剤の散布、ローテーション防除)				→▲	
野菜全般	アブラムシ類	並	< 有翅虫飛来に注意 >						アブラムシ類
	タバコガ類	少	< 幼虫発生最盛期 >						有翅虫が確認されたら防除を行う。
	防除適期		▲←	アブラムシ類(早期発見・早期防除)				→▲	
			▲←	タバコガ類(早期発見・早期防除)				→▲	
果樹全般	生育(高山市)	並							(生育はリンゴ)
	カメムシ類	少	< 第1世代成虫 >						カメムシ類
	防除適期		▲←	カメムシ類(果樹園飛来時)				→▲	

注) ▲、▲←→▲: 防除適期

調査データ



写真1 幼果に感染した灰色かび病



写真2 花がらに感染した灰色かび病



写真3 ゴーストスポットを生じた果実

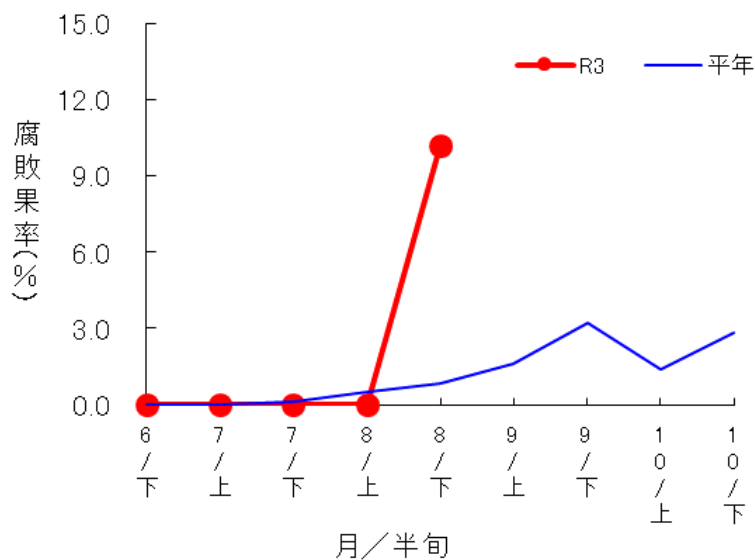


図1 灰色かび病腐敗果率（下呂市）

注) 平年は H24~R2 の9年間

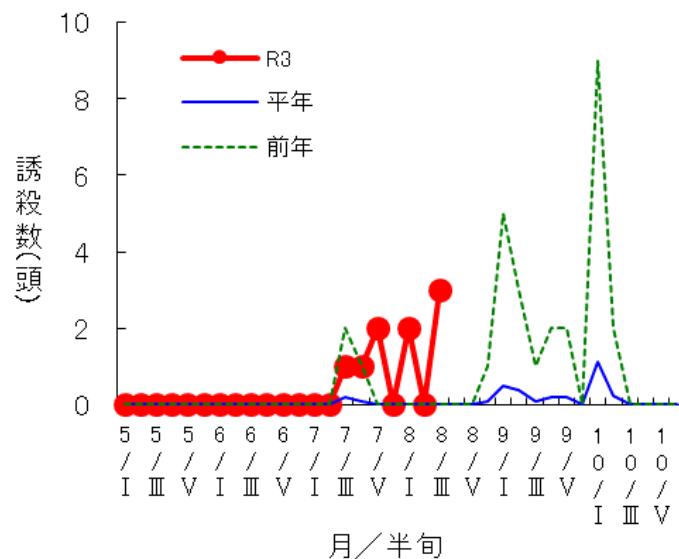


図2 予察灯によるトビイロウンカ誘殺数の推移

(恵那市三郷町)



写真4 トビイロウンカ成虫
(左：短翅型 右：長翅型)



写真5 坪枯症状 (2019 中津川市)

東海地方1か月予報 (名古屋地方気象台 8月26日発表)

向こう1か月の気温、降水量及び日照量は、ほぼ平年並みの見込みです。月のはじめは、高気圧に覆われやすく平年に比べ晴れの日が多いものの期間の終わりは湿った空気の影響で雲の広がる日もあるでしょう。その後の天気は数日の周期で変わる予報です。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/24321/>

飛騨支所 〒506-8688 高山市上岡本町 7-468 TEL (0577) 33-1111(内線 245) FAX (0577) 34-2706